



▲社日小学校2年1組の給食の様子。当番さんが皆さんの机の上に安来牛乳を配っていました。

子どもたちの成長を守って47年

安来牛乳：安来乳業株式会社（赤江町）

安来牛乳と言えば学校給食を思い出します。40歳代までの人にとっては、9年間の給食の思い出の一つではないでしょうか。この安来牛乳は3月末を持って製造が中止され、47年の長い歴史の幕が閉じます。

「安心安全はもちろん、何よりも新鮮であることが地元牛乳のいちばんの良さです」と話すのは、市学校栄養士会長の小林歩^{あゆみ}栄養教諭。「教職員が牛乳生産の場を見たり、生産への思いを直接、聞いたりさせていただけです。そのことを児童に伝えることで食育にもつなげることができまます」と、地元で製造される効果を語ります。



昭和60年代パッケージ

の商店などに出荷してきました。現在は14戸から集めた生乳を加工し、年間195トンの牛乳等を販売しています。牛乳は、学校給食法で児童・生徒たちへの提供が必要です。小学校へは学校給食、給食センター完成前の一部の中学校へはミルク給食として、安来牛乳は提供され続けてきました。旧安来市の学校はもちろん、平成前後には能義郡の学校へも広がり、現在は全小・中学校で提供され、児童・生徒たちの成長を守っています。



▲製品の数々。忘れてならないのが安来フルーツと安来コーヒーの存在です。「創業時から製造され続けた人気の定番商品です」と同社。

生の社会科などで児童が毎年、工場を見学。客野智校長は「地元の牧場と工場とのつながりを大切にしたい学習ができます。毎日飲んでいる牛乳が学校の近くで作られていることは、地域の様子や良さを知ることができ格好の教材です。住んでいる地域ってすごいな、自然が豊かなんだと感じることが出来ます」と話します。



現在、安来・松江市内の70校・園などに毎日、配達されている安来牛乳。47年間の牛乳づくりは、地元の牛乳として文字どおり安来の子どもたちを育んできました。

※資料協力：矢田牛乳店

編集後記

安来市の人口と世帯数 H31.2.28現在

人口合計 / 38,866人
(男:18,638人 女:20,228人)
世帯数 / 14,334世帯

▼天気の良い日が増えるようになりました。この時期に現れてくるのが花粉症。最近、目と鼻への攻撃に耐えながらの取材。この状態がまだ続くと思うと気分が落ち込みます。せっかく暖かくなるときに悪いことばかり思うのは嫌なので、これから出てくる春の味覚など、楽しみを想像することになります(荷)

▼撮影に行った先でセラバンド運動を初体験しました。これがなかなか優れたもの。ゆっくりと行うことで体にしっかりと負荷がかかります。ゴムを持つ位置を変えると、自分に合った強弱にすることが出来ます。お近くの交流センターで教室があるかもしれませんよ。翌日はちょっとだけ筋肉痛になりました(の)

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用